

# 日々はOracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

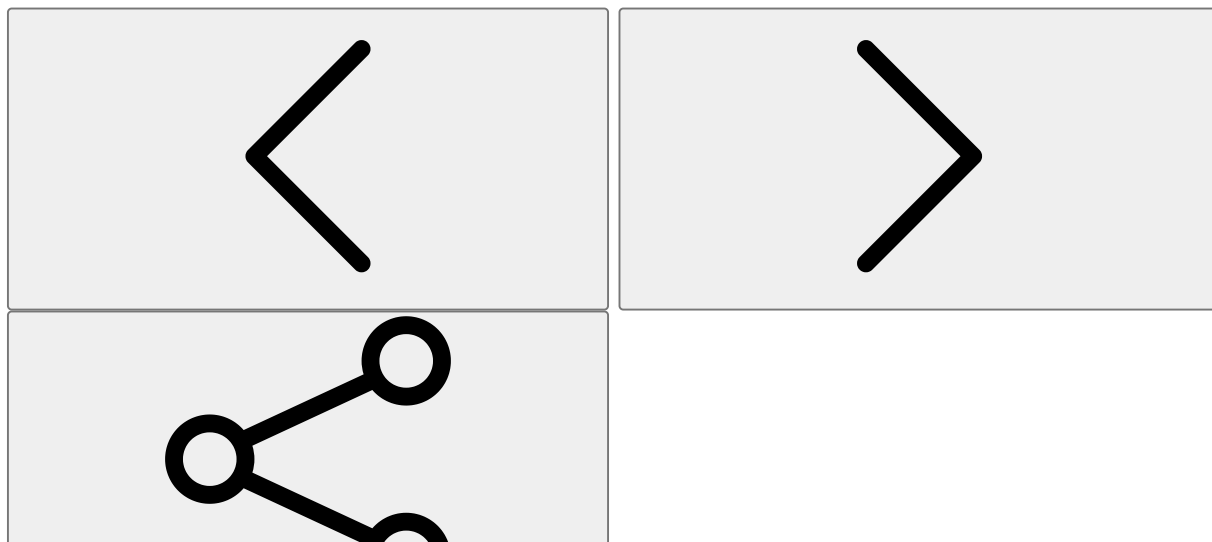
2020年10月28日水曜日

## Oracle APEX アプリケーションの翻訳方法の紹介

先日、Oracle Groundbreakers APAC Virtual Tour 2020のセッションとして、Oracle APEXアプリケーションを翻訳する方法について紹介しました。



[世界食堂 - Oracle APEXアプリケーションを複数言語、複数タイムゾーンに対応させる](#)  
by [Yuji Nakakoshi](#)



セッションの元記事は、[こちら](#)です。セッションそれ自体は45分間なので、ブログの記事よりも内容が絞られています。

また、セッションではアプリケーションの翻訳に、XLIFF翻訳ファイルを使っていますが、そこで使用しているアプリケーションの説明は[こちら](#)です。

Oracle APEXがあらかじめ保持している翻訳済みのメッセージは、WWV\_FLOW\_MESSAGES\$表に含まれています。それらの翻訳済みメッセージを利用するため、以下のSQLでコピーしています。

```
insert into cwr_messages(name, message_language, message_text) select name, message_language, message_text
from APEX_200200.www_flow_messages$;
```

スキーマのAPEX\_200200の部分は、インストールされているAPEXのバージョンで変わります。20.1のデータを使って構成しているアプリケーションは、[こちら](#)からアクセスできます。ユーザー名とパスワードが同じ文字であればログインできます。例えばtranslate/translateです。

Autonomous Databaseなどは、APEXの製品スキーマへの直接アクセスが制限されているので、手元のVirtual Boxなどに一旦Oracle APEXをインストールし、そこで一旦コピーします。コピー結果は、データ

ワークショップのXMLエクスポート/インポートの機能を使うことで、Cloud上のAPEXへインポートすることができます。

最後にセミナー動画です。資料を表示する代わりに、実際にアプリケーション・ビルダーによる操作を行っています。



声がとても小さいです。

完

Yuji N. 時刻: 10:54

共有



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.